

2026年度 事業計画

〈法人目的〉 キリスト教の精神に基づき、あらゆる人々が自分らしく生きることのできる平和な社会の実現をめざす。

I 保育事業（第二種社会福祉事業）

〈保育理念〉 キリスト教の精神に基づいた保育の中で、乳幼児の育成に励み、一人ひとりの子どもが未来社会の良き担い手となるようにはぐくみ育てる。

1. 大宮保育園

(1) 認可定員・利用定員・職員数

- ・認可定員 180名 ・利用定員 135名 ・一時預かり事業定員 休止
- ・職員数 39名／園長1名（常勤）、主任保育士1名（常勤）、保育士26名（常勤20・非常勤6）、調理員5名（常勤3・非常勤2）、看護師1名（常勤）、事務員2名（常勤1、非常勤1）、子育て支援員2名（非常勤）、保育補助1名（非常勤）

(2) 保育目標

どの子ども一人ひとり神さまから託されたかけがえのない子どもたち。

子どものありのままの姿を受け入れ、以下のような姿を目標に本園の全体的な計画にそって保育する。

- ・どんな小さなことにも感謝することのできる子ども
- ・すべての命を大切にする子ども
- ・あそびも学びも根気よく集中できる子ども
- ・表現豊かな子ども
- ・仲間を大切にし、地域のなかでともに育ち合う子ども

(3) 年間保育目標

キリスト教保育2026年度年主題「しゅイエスとともに」を園の年間保育目標とし、大切にしたいことを職員間で共有して保育をすすめる。

(4) 保育内容

子どもたち一人ひとりのありのままの姿を受けとめることを大切に、園として特色のある取り組みを実践する。

- ① 乳児保育・育児当番制で学びつ一人ひとりを尊重した丁寧な声かけを行い、ゆったりとした雰囲気の中で愛着関係を築き、自尊心をはぐくむ。
- ② 幼児保育・異年齢保育（たてわり）を基盤に、遊びと生活を通して人間関係をはぐくむ。目に見えない心の育ちを大切に活動や行事を行う。発達課題に応じて年齢別クラス（よこわり）の活動を取り入れる。
- ③ 子どもの人権、特別支援保育、保護者支援等への理解を深め、チームで課題にあたろう縦横で連携して取り組む。職員一人ひとりが役割を持ち、自覚し、前向きに取り組んでいく。

(5) その他の取り組み

- ① 地域の子育て世帯の交流の場、子育て相談の場として園庭開放を継続して実施する。
- ② 地域主催の防災訓練や研修、会議等に参加し、ネットワークを構築する。
- ③ 地域や養成校と連携し実習生、インターンシップ、ボランティア等を積極的に受け入れる。
- ④ 危機管理体制を充実させ、積極的に苦情解決、防犯・防災訓練に取り組む。（地域との連携）
- ⑤ サービスの質の向上に向けて、ヒヤリハットや事故報告書などを検討し、再発防止に取り組む。
- ⑥ 行政・地域と共同しつづ児童虐待防止、性暴力防止、DV予防に取り組む。
- ⑦ 職員の資質向上を目指した研修や、職員会議を充実させ、知識や情報の共有・アップデートを丁寧に行う。園内研修は5月と11月に予定。
- ⑧ 変わりゆく保育情勢を注視し、求められる保育園として向上を目指す。（1歳児の受入れ増など）

2. こひつじほーむ（小規模保育事業）

（1）認可定員・利用定員・職員

- ・認可定員及び利用定員 12名（0歳～2歳児各4名）
- ・職員数 9名／園長1名（常勤）、主任保育士1名（常勤）、保育士5名（常勤2・非常勤3）、保育補助2名（非常勤）

（2）保育目標

子どもをありのままに受け入れ、一人ひとりの心に寄り添い丁寧に関わる中で、以下のような姿を目標に保育する。

- ・まわりの大人の見守りや援助の中で、安心して自分で身の回りのことをしようとする
- ・生活や命のある物に触れ合う中で、全ての物を大切にできる心が育まれる
- ・まわりの大人や友達との信頼関係の中で、自分の思いをそのまま言葉や身体で表現できる
- ・やってみたい思いを受け止めてもらいながら、興味を持つことに意欲的に取り組もうとする

（3）年間保育目標

キリスト教保育連盟の2026年度の主題「しゅイエスとともに」を年間保育目標として掲げ、職員間で思いを共有する。

（4）保育内容

保育を取り巻く社会の変化に留意し、小規模保育事業所の役割を確認しつつ日々の保育に務める。

- ・小さい集団の中で家庭的な保育を行う。
- ・親元から離れて初めて出会う大人に十分に受け入れられ、信頼できる大人との出会いのなかで愛され、のびのびと過ごす。
- ・育児担当制に学びつつ、日々の安定した生活の流れの中で見通しを持ち、安心して過ごせるよう保育環境に配慮する。
- ・スキンシップ、あやし、受容と共感などで満たされた関わりの中で過ごし、心を育てる。
- ・四季折々の自然に触れて遊ぶ中で五感を育む。
- ・保護者、地域の方、職員が繋がりあい、子どもの成長を見守る中で、一人一人の自己肯定感を育む。
- ・大宮保育園との連携の中で、異年齢の子どもとの触れ合い、行事への参加等を通してより豊かな体験をし、事故防止、防災、保健衛生、安全管理等の面での協働、情報交換を通し質の向上を測る。

（5）その他の取り組み

①保護者支援

- ・園での生活の様子を知って保護者が安心でき、家庭と園とが細やかに情報共有することで保育者がこどもたちへよりよいかわりができるよう、保護者が園生活の一部を共に過ごす「保育参加」を勧める。
- ・親子が共に過ごす時間と場所を提供する「こひつじ会」を通して保護者同士の交流の場をつくり、園と保護者とのコミュニケーションもより深まるよう工夫していく。父親同士の交流にも目を向けていく。
- ・地域の未就園の親子を対象に、年2回土曜日の保育室を開放し共に過ごす「オープンこひつじ」を開催する。

②地域に根ざした保育園であることを大切に、地域住民との交わりや発信を積極的に取り組む。防災や子育て支援の面で地域と協働する。

③危機管理体制の充実をめざし、苦情処理、防犯、防災訓練に力を入れる。

④行政・地域と協働しつつ児童虐待・DV予防・子ども性被害防止に取り組む。

⑤課題共有と問題解決に資する職員会議、職員一人ひとりが成長を感じられる研修を計画・実施する。

⑥ヒヤリハットや事故報告書などの検討に工夫を行い、再発防止やサービスの質の向上につなげる。

⑦第三者評価をふまえ、中長期計画の明文化、マニュアルの整備、ボランティアや実習生の受け入れ等を進める。

⑧「こども誰でも通園制度」等、保育を取り巻く情勢の動向を注視する。

II シャロン千里

昨年度に引き続き北千里駅周辺の再開発が進んでおり、団地の立て替えをきっかけに施設入所を検討され申込みは絶えない状況でケアハウスは常に満室状態が続いています。また新しくこの地域に転居してこられたファミリー層にもシャロン千里をより広く認知してもらうために、引き続き地域との交流も視野にいれ展開していきたい。そのために職員全員がそれぞれの専門性を活かし高齢者・介護に悩む世代・子育てに悩む世代・子どもたちをサポートしていきたい。

- 《基本方針》
- ・ 「いのちの尊厳」が守られるケアに力を注ぐ
 - ・ サービスの質の向上に努める
 - ・ 社会貢献事業に取り組む
 - ・ 経営の安定性をめざす

1. ケアハウス（軽費老人ホーム）

入居者が安心して日々の生活を送れるよう、一人ひとりに寄り添った支援ができるよう努める。前年度開催した作品展やシャロンでわくわく元気を継続し、地域の方にケアハウスの情報を広く発信し、入居者の方の新たな交流の場となるような機会にしたい。また前回好評だった地域の高校生による高齢者スマホ講座のような多世代の交流にも取り組みたい。

- ① 定員 50名
- ② 自立支援 ・入居者の自主性を尊重し、自己決定が出来る環境作りに努める。
- ③ 生活の充実 ・入居者一人ひとりが発信する情報を的確にとらえ、多様化するニーズに合わせた支援に繋げ、生活の充実を支援する。
- ④ 職員の質の向上 ・定期的な内部研修や外部研修の活用により職員の知識を深め、入居者に寄り添った対応が出来るよう、職員の質の向上に努める。

2. 介護保険事業

(1) デイサービスセンター（通所介護・通所型サポートサービス）

レクリエーションや行事を通じて交流を深めるとともに、残存能力を維持できるよう自立を支援できる楽しい時間と心地よい空間を提供していく。作品展に向けての作品作りを行い創作の楽しさを感じていただきたい。また利用者・家族に向けたアンケートの結果を日々のプログラムに反映していく。加えて希望があれば家族参観や家族会を行い、介護の悩みの相談にも答えていきたい。地域交流のためのオープンプログラムも開催していく。

職員一同、利用者一人一人に丁寧に対応し、信頼されるデイサービスを目指す。

- ◆目 標 ・一日平均利用者数 17名（要介護15名、要支援2名／定員 20名）

(2) ヘルパーステーション（訪問介護・訪問型サポートサービス）

人材不足・介護離職者等介護の未来を考えると不安要素ばかりである。特にヘルパー不足は深刻である。幸いなことに当事業所においては離職者もなく、ヘルパー新規登録者1名が新たな人材として加わった。今後も、貴重な人材の育成に取り組みたい。ヘルパーのスキルアップ研修や安心して働ける職場環境を整えていきたい。

(3) ケアプランセンター

近隣地域の高齢化が進み、認知症や独居・老々介護等の問題を抱え、介護を必要としている方が増加している。必要な介護が受けられない状況がないように事業所として、人員を確保し地域包括支援センターや地域医療施設との連携を図り、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように支援を行なう。

支援困難ケースについても積極的に対応を行なう。ターミナル期における支援を可能な限り受け入れ、本人・家族の気持ちに寄り添い人生の最期の時まで自身が望む尊厳のある生活を守る事が出来るように共に考え取り組んでいく。またケアマネージャーの育成を大切にして、新人に対しても十分な研修を行い不安のないように指導していきたい。

- (4) 介護サポート連絡会 ① 職員研修の成果を各事業現場に活かせるように取り組む。
② 介護保険情報を共有し、事業運営に活かす。

3. 地域包括支援センター（吹田市受託事業）

2025年度に引き続き、幅広い世代の多様な地域課題を抽出し、地域住民や多職種の従事者と連携して解決方法を検討する。具体的には、青山台に誕生する集い場の活用促進への協力、古江台の福祉ケア連絡会にて防災についての検討を予定している。在宅介護・医療連携推進のため、情報収集・連携強化のための取り組みを継続し、地域での事例検討会の開催を目標にする。家族支援を目的としたとりくみ・相談会等の開催を目指したい。

包括支援センターに求められる業務内容を再確認することで、職員が共有・意思統一できるようにしたい。

4. こども館（児童館）

こどもの健全育成と子育て支援を目的に取り組む。

- ① 子育て支援プログラム ・おやこひろば、おおきなかぶ
- ② こどもプログラム ・ちゃれんじひろば 協力：大阪YWCAこども部
・こども食堂（新規）地域のこども達に栄養のある食事を提供し、みんなと一緒に食べる喜びを伝えることを目的として、2026年6月から月1回開催。
（予定）共催：大阪YWCA千里子育て支援委員会
- ③ こども図書室 ・図書室運営、おはなしの部屋

5. 介護職員初任者研修事業（旧ホームヘルパー養成講座）

受講期間3ヶ月、週2回の通学と自宅学習とする。パソコンやスマホでも当研修が検索できる体制を整えた。修了後は、当施設に勤務する方に受講料の一部を補助する制度で受講生の便宜を図り、受講意欲の増進と職員確保につなげる。

6. 全 体

- (1) 職員数 47名（常勤 15名、非常勤 24名、登録ヘルパー 8名）
- (2) 食 事 日清医療食品株式会社に委託する。定期的な献立会議などで情報交換を行い、入居者・利用者に喜んでもらえる食事と食生活空間作りを目指す。
- (3) 事故対応委員会
事故・ヒヤリハットの事例報告、検討を通じて事故防止、再発防止を目指す。
- (4) サービス品質向上委員会
苦情対応報告やアンケート結果などを、利用者及び家族の声に重点をおいて検討し、サービス内容の見直しとサービスの質の向上を図る。
- (5) こども館運営委員会
こどもの健全育成及び子育て支援を目的に協議を行い、こども館の運営に反映させる。
- (6) 身体拘束適正化・高齢者虐待防止検討委員会
「身体拘束適正化のための指針」や「高齢者虐待防止指針」に基づき、研修や事例検討などを通し利用者本位のサービスによる質の向上を目指す。
- (7) 感染症対策委員会
「感染症・食中毒の予防まん延防止に関する指針」に基づき、感染症マニュアルの見直しや感染症に関する新しい情報の共有を行い対応していく。
- (8) 衛生委員会
職員が心身ともに安定した状態で労働ができるように課題検討を行い社内環境の調整を行う。
- (9) 社会貢献事業
経済的支援のみに留まらず、その人らしい自立にむけた支援が行えるよう大阪府社協の社会貢献支援員や吹田市内の他の施設と連携を密に対応していく。